

囲碁マナーの基本マニュアル

<p style="text-align: center;">対 局 前</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 「^{かみざ}上座・^{しもざ}下座」の区別がある対局場では、棋力の上位者が上座に座る。なお、同位者の場合は、年長者が上座に座る。 ② 下座の人が、乾いた布で盤面をぬぐう。 ③ 互い先の場合は、上座ないし年長者が「ニギリ」を行う。ニギリとは上座の人が白石を適宜つかみ盤上に伏せる。一方は黒石を奇数(1個)または偶数(2個)を盤上に置く。そして伏せた手を開いた白石の数(偶数ないし奇数)によって、黒番・白番を決める。 ④ 「コミ」は通常、「先番(黒番)6目半」と定める。対局開始前、あらかじめ「コミ・競技時間・秒読みの有無」などを確認すること。 ⑤ 「互先」の黒の第1手は、原則として「右上隅」方面に着手する。 ⑥ 「置碁」の碁石の配置については、以下の順に置いて行く。 右上 ⇒ 左下 ⇒ 右下 ⇒ 左上 ⇒ 右辺 ⇒ 左辺 ⇒ 下辺 ⇒ 上辺 ⇒ 天元
<p style="text-align: center;">対 局 中</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 打つ場所を決めたのち、碁笥から碁石を一子だけ取り出し、盤上に着手する。 (打つ場所を決める前に、碁笥に手を入れたり、石を持たぬこと) ② 着手後の石の移動(「打ち直し」「待った」)は、即「反則負け」となる。 ③ 無用の言葉を発しないこと — 相手や周囲に不快感を与えてはならない。 ④ 手洗いなどで一時的に中座する場合は、自分の手番を打ったのち相手に軽く会釈をして静かに退席する(座席に戻るときも軽く会釈する)。 ⑤ 対局時間が定められていない場合は、極端な長考・早打ちは慎むこと。 ⑥ 手合時計(対局時計)は丁寧に扱うこと。 ⑦ 「出石」(碁笥に相手の石が混ざっている場合)が見つければ、速やかに相手に戻す。 ⑧ 形成が大差でまったく挽回が不可能な局面では、対局途中でも「投了」できる。 ⑨ 大差の碁でも最後まで打ち、ダメ詰めをしたのちは「投了」せず、作って数えること。 ⑩ 全局面の「形成判断」は、少なくとも3回以上は行うこと。 ⑪ 対局中に石がずれたら直ちに元へ戻す。両対局者が「合意」しない場合は「両負け」となる。
<p style="text-align: center;">終 局 後</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 終局したのちは、それぞれ「相手側の陣地の整地」を行う。できるだけ「5目ないし10目単位」に作り(並べ)かえることを心がける。 ② 対局が終局して勝敗を確認したら、静かに碁石を碁笥におさめ碁笥を盤上の中央に戻し一礼する。 ③ 互いに「終局の確認」を同意してダメを詰めあったのち、もし「手」が生じても認められない。 * 漫然とダメ詰しないこと。 ④ 勝敗の確認後に「アゲハマ」「出石」が見つかっていても無効である。 ⑤ 終局後の検討は、勝者は謙虚な態度で行い、敗者はなごやかに行う。 ⑥ 盤上には、碁笥・碁石以外は置かないこと。また、盤上で書き物をしたり、食事をしてはならない。